回　　覧

続 学校点描

『挑戦の自由』が本校の今年度のテーマです。生徒個々の様々な挑戦の姿を見ると大人の方の挑戦も考えます。

《最上町立最上中学校》
NO.11　　R6. 9. 19
担当：校長

9月5日（木）に新庄市民プラザ（大ホール）を会場に最上地区中学校高等学校英語弁論大会が開催されました。3年生の伊藤陽菜さんが暗唱の部に、3年生の菅　倫嘉さんが弁論の部に、2年生の板垣貴大さんが弁論の部に出場しました。放課後などALTのピーターの指導を受けながら努力しての参加でした。結果、菅　倫嘉さんが優良賞、板垣貴大さんが優秀賞に入賞しました。3人の努力と挑戦心に拍手です。

9月10日（月）に村山市民会館にて少年弁論大会の最北大会が開催され、大場柚葵さんが優秀賞となり9月21日の国際交流会館で開催される山形県大会への出場を決めました。挑戦はつづきます。

9月6日（金）今年度も山形大学地域教育学部教授音楽教育教授の佐川　馨先生と5名の音楽専攻の大学院生をお招きし、午前中は3年生の合唱指導を、午後は全校生徒に向けた“山っ子コンサート”を開催していただきました。途中、一緒にリズムを手拍子したり踊ったりのプログラムも入れて、音楽の楽しさを工夫して伝えてくれました。飛び入りした柏倉先生の普段とは違う声色にも驚いていたようです。

目を覚まさせてくれた人

第一章

「最近の言葉で『親ガチャ』という言葉が一番嫌いです」と、テレビの中である政党の総裁候補に立候補した政治家の人が言っていました。「わたしだったら何だろう？」そう考えて出てきた言葉が『マウントを取る』でした。“マウントを取る”とは、相手よりも優位に立ちたいがためにとる言動を表しています。自分の考えが一番正しいと思っているため、自分の意見を人に押し付けたいという心理から“マウントを取る”が生まれているのだそうです。

第二章

友人のＡさんが体験したある駐車場管理人さんの話を聞きました。Ａさんは、

自分の事務所の近くに駐車場を借りていたそうです。その駐車場には、初老の雇われ管理人がいました。定年退職後、その駐車場の管理人として働き始めたそうです。Ａさんが駐車場を利用するたびに、その管理人の老人はいつも笑顔で「おはようございます。今日もいい天気ですね」と声をかけてくれました。通常なら駐車場が満車になると、“満車”と書いた大きな看板を入り口に置くだけです。けれどその老人は、“満車”になると、入り口に立って、入ろうとするドライバーひとり一人に「申し訳

ありません。満車です」と頭を下げるのだそうです。そんなとき、必ずと言っていいほど「どうせ雇われ管理人だろ！なんとかしろ！」と暴言を吐きながらクレームを言うお客がいます。自分はお金を払う側だ、お前より上なんだとマウントするわけです。それでも、管理人さんは、頭を下げ続けます。マウントを取った運転手は「ちぇっ」と言って、立ち去りました。管理人のおじいさんは、その車が見えなくなるまで頭を下げ見送っていたそうです。Aさんは、それを見ながら、「そこまでしなくてもいいのに」と思ったそうです。ある日、車を止めてあいさつをすると、おじいさんは「今週いっぱいで辞めます。いろいろお世話になりました」と言いました。奥さんが病気になったらしいのです。Aさんは、残念に思いながら、最後の日に感謝の手土産でも持っていこうと決めたそうです。

第三章

朝、通勤途中で、若宮公民館を過ぎたあたりの信号機のところを、生徒が横断します。信号機のある交差点です。車は、青信号に変わるまで停止します。ある一人の本校の女子生徒が横断し終えると、赤信号で止まっていた両側の自動車に向かって丁寧にお辞儀をしていました。小学校からの習慣かもしれませんが、その丁寧なお辞儀に、なんだかドライバーの心の持ち様を教えられた気分になります。

イメージ写真

最終章

Aさんが着いたとき、小さな管理人室の周りには、たくさんの若者であふれていました。管理人室の中も外も、たくさんの手土産や花束でいっぱいだったそうです。一人ひとりが、雇われ管理人の老人に感謝のお礼をいったり、握手したりしていたそうです。 Aさんは、その時の状況をわたしに語りながら、こう言いました。

「人を上から見ていた自分の目を覚まさせてくれた人なんだよなあ」と。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp